

インドネシア出張報告

企画情報班 吉田 義則

今回、中川先生、里深先生と3人で平成16年3月22日から3月27日まで、インドネシアに出張してきました。勤務先は、マランにある水管理公団ジャサティルタ（JASA TIRTA I Public Corporation）に行き、そこからブランタス川の支川レスティ川流域（図1）に設置されている雨量計のデータ回収作業などを行いました。雨量計は、ポンチョクスモ（Poncokusumo）、ゲドゲタン（Gedogwetan）、タワンレジェニ（Tawangrejeni）と公団内の4ヶ所（写真1）に設置されています。

雨量計のデータは、データミニ（3639）に0.5mmごとにカウントされます。単4電池を使用して10分のインターバルでデータを書きこむと220日は記録できます。コミュニケーションベース（3911）を使ってデータミニ

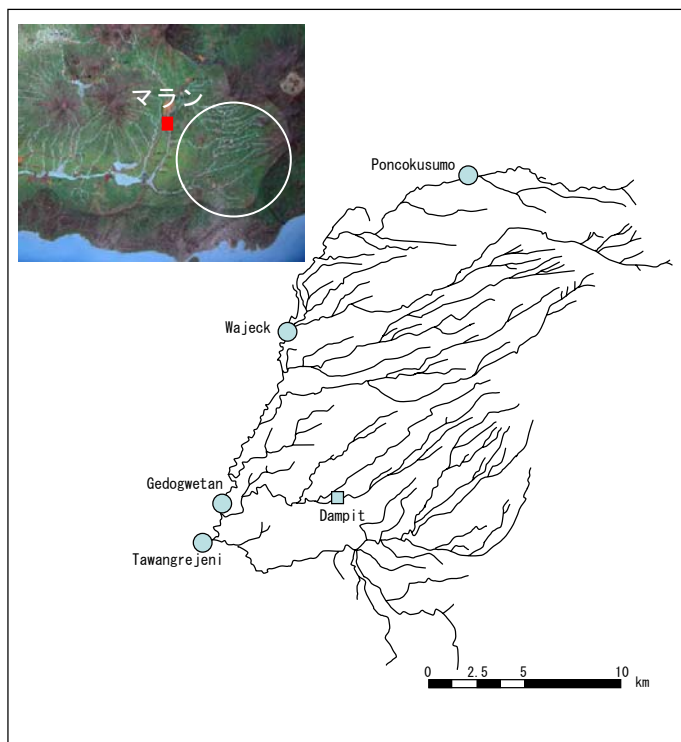


図1 レスティ川流域



ポンチョクスモ



ゲドゲタン



タワンレジェニ



水管理公団

写真1 設置箇所



コミュニケーションベース



データミニ



接続

写真 2

のデータを取り込む（写真 2）には、パソコンにインストールされているコミュニケーションユーティリティソフトを起動して RS232C ケーブルでつないで取り込みます。データの保存形式には、2 種類あります。

バイナリ形式：

コミュニケーションユーティリティで読み込める形式で保存します。

テキスト形式：

表計算ソフトウェアなどに読み込める形式で保存します。

取り込みが終われば、電池の交換をして測定条件を設定すれば終了です。

次の日は、ブランタス源流公園（写真 3）が雨季のときに土砂が流出して荒れているということで見に行きました。ここには、中川先生、里深先生が以前に来たとき植林した木が植えられており、大きくなっている木を見つけて感激していました。ここは、きれいに整備されていたのですが、上流に行くとかかなりの土砂で埋まって荒れておりました。

今回乗ったシンガポール航空の機内は、エアコンが効かし過ぎで大変寒かったです。スラバヤの空港に着いたときは、逆に外の気温が高く温度差の激しい変化には体もびっくりです。空港からマランに向かうのであるが、そこは標高約 800m 位で暑さはまだましでした。また、果物の王様といわれているドリアンをはじめて食べたのですがうわさによる特殊な臭いがあるとかいう感じもなくおいしかった。他には、ランブータン、マンゴスチンも大変美味しかった。インドネシアでは、果物が豊富で安く食べられ大満足でした。しかし、くだものよっては日本の方がおいしいものもあります。今回は、2 度目のインドネシアですが、前回のジョグジャカルタより過ごしやすかった。また、飛行機も前回は、直行便であったが、今回は乗り継いでいったので少しは楽でした。



写真 3 ブランタス源流公園